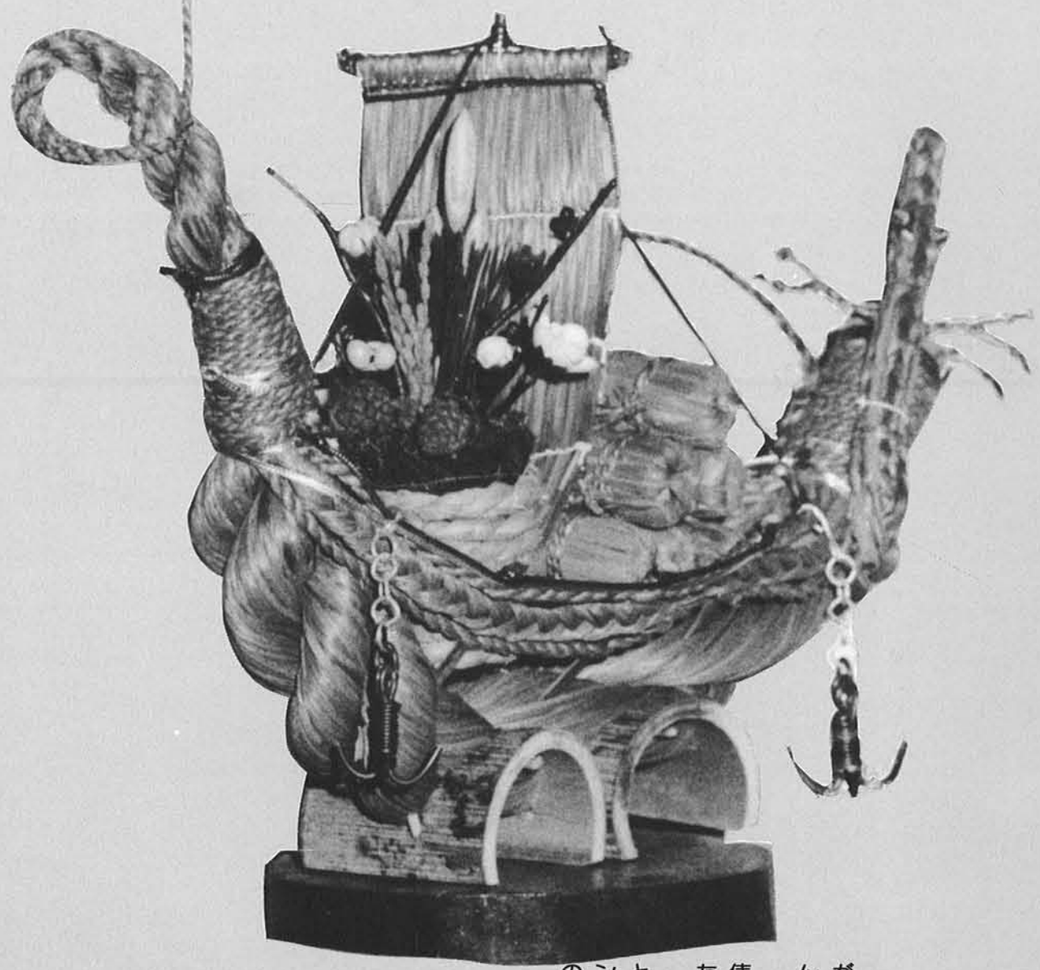
広報 わしま

昭和63年1月

人口の動き

	11月末人口
出生8人	死亡2人
転入10人	転出7人
世帯数	1,285世帯(＋1)
男	2,790人(＋5)
女	2,868人(＋4)
計	5,658人(＋9)



宝船

正月の縁起物で知られる宝船が昨年暮れ、両高の関本健蔵さんのところで作られました。

材料は自分で全部調達され、俵のわらは夏から準備されました。

船には辰年にちなんで辰の尾という草が使われ、長さ四十センチ、高さ二十五センチ位のものが五こ作られました。

主な内容

2～3頁…年頭のごあいさつ
4頁……野球場照明施設・教職員住宅合同竣工式、読者リレー
5～17頁…明るい家庭づくり運動作文
18～19頁…ワシマスポット、村長室の黒板
20頁……わしまのよめさん、温故知新

昭和63年1月1日　第173号　発行・編集/和島村役場企画課　印刷/㈱第一印刷所

わしまのよめさん

梅田　田村浩美さん
世帯主・政治さん

田村さんは西蒲原郡吉田町の出身です。

町の中心地で商店が多く、また、JR吉田駅にも近く大きなスーパーも近くにあり便利なところです。

主人の政幸さん（分水町にあるダンボール箱製造会社勤務）とは恋愛結婚で昭和六十一年一月に梅田に嫁いで来られました。

現在、祖父母、父母、若夫婦そして長女の有樹子（ゆきこ）さんの七人家族です。

――村の印象は？

春にはかえるの声が、また、夏にはせみの声が聞こえる大変静かなところだと思いました。

しかし、海は近いし、山も近くにあるので、ぜんまいやわらびなどの山菜を取ることができるので良いところだと思います。

――一ヘクタール余の水田を耕作される家に嫁がれたわけですが農業はどんなもの？

私なにも手伝いませんからねーとけんそんの様子

――村に対して意見・要望は？

子どもの遊べる公園が近くにほしいと思います。また、大きなスーパーもほしいです。

……

田村さん宅は三世代家族であられ、いつも話題が豊富です。

「改良服」「簡単服」これは今でいうワンピースのことです。

終戦当時はね「……」その後「……」今はねと何んでも話し合える家庭の明るい嫁さんでした。

温故知新　温故の栞に就いて

歴史を語る人々が好く引用する『温故の栞』は明治二十三年二月から同二十六年一月までの満三年間に版行された三十六編の冊誌である。三島郡浦村（現在越路町）の大平覺太郎等が中心になって『温故談話会』を作り古書をあさり古文書を集め、神社・仏閣・古城跡を調査し、あるいは古来の伝承を書留め研究し刊行に至ったものである。初編の巻頭言には時の県知事篠崎五郎氏の『温故知新』題字をのせている。編集部の機構は不明だが若干の委員が地方に出張し調査して資料を集めていたようである。会員数は五百名も誌中に見えるが長岡・上三島・魚沼・西越・出雲崎に多く、寺泊・大河津・与板にも拡っているが、その当時和島村には一人も加入者の名前が見当らない。どう言う事情か解らないが淋しい気持ちがする。全巻を通して集載された項目を大別すれば沿革の部百七十。

神社仏閣の部四百二十五。名所旧跡、二百八十七。古城跡、二百八十二。物の起原、百四十五。名家の去就、百六十七。偉人伝、百五。古書器類、百七。

外に民間の風俗、習慣等数多くの項目に就いて記載されている。編集員が各地に出張し、その地方の識者に聞き、実地を踏査した上原稿にし刊行されたものであろうが大変の苦労があったと思う。中には伝説伝承をそのままに載せてあるふしもあるが、玉石混交とそしるわけには出来ぬ問題と思う。我が村に関係して居る項目は比較的に多い。黒坂・北野・根小屋方面の事を多くのせてあることは、その当時地方に歴史に委しい人がおられて材料の提供されたのではないだろうか。

（因に誌代壱ヶ月一冊拾銭　郵税五里六ヶ月五拾四銭　十二ヶ月壱円〇二銭外郵税）

久住熊三郎記

だめなのは　見えたつもりと　見たつもり

年頭のごあいさつ

和島村村長　**清野精合**

明けましておめでとうございます。

村民皆さんが恙なく東方山上に輝く旭日の出を迎えられたことを心からお慶び申しあげます。

除夜の鐘で年を送り清冽な若水を汲み口に含んだ清新な気持は格別であります。

今年は何かよい事がありそうだ、よしやろうと決意をそれぞれの胸に秘められたことと思います。本年は辰（竜）年でもあり、古語に言う「竜の水を得るが如く」のとおり気力充実して活性ある年と承知したいものであります。昨年は自然災害もなく平穏な年であり、低迷を続けた諸産業も漸く軌道にのりつつある時に国際経済動向の渦中とは言いながら株式の乱高下ドル安円高も遂に百二十六円台にと先行き推測のつきかねる状況の中で年を迎えました。

また農業情勢は更にきびしい事態に当面していますが、その中で四年続きの豊作に恵まれました。農家各位の御努力の賜と思いますが、本年以降のことを考えると喜んでばかりもおられない現況であります。

国ではふるさと創生論をひっ下げて登場された竹下首相によって多極分散地方の時代の将来を切に願望する処であります。

四月の統一選挙において三たび村長就任の栄を与えて頂きまして以来村民の皆様、議会各位の御理解御協力を得まして無事予定の諸事業を執行してまいりました。厚く感謝を申しあげます。

予定の諸事業を執行すると同時に行政改革をも推進し義務的経費の節減、事務事業の見直し簡素化、機械化を推進してまいりました。お蔭様で御懸念されました財政基盤も安定し、六十一年度決算に於いて公債比率一三・六％と県下町村の平均に到達いたしました。

長期的視点に立っての計画的行財政の推進と健全財政の堅持は今後も念頭から離すことなく努力する考えであります。

二十一世紀も間近に迫り新成人が仲間入りされると同時に高齢化社会も進展しております。

また社会、経済の背景となる交通条件の整備も進んでいます。

八月には北陸高速道が開通し、一一六号出雲崎、和島バイパスも計画通り進展しています。

国県道の自歩道設置を含めた改良も進んでいます。之等の進展と併せながら、継続事業の推進と新事業の開拓を志しています。

特別環境保全地域及び農業集落排水必要地域に下水道布設の具体化を計り、企業誘致に努力を致します。既立地の企業並びに二、三年この方立地された企業も社員を充足され活況を呈しその企業努力に敬意を表すると共に村民雇用に対して感謝を申しあげます。多年構想を暖めておりました「良寛の里」については目下基本計画を策定中であります。之に関連する用地取得、村道の新設改良に関係者の御協力をお願いする次第であります。

きびしい農業情勢でありますが水田農業確立の諸施策を農家農協各位の御協力を得て推進したいと考えます。ふるさとの香り一杯の特産品の開発、販売についても商工業、商工会の皆さんの御努力御精進と相俟って推進いたしたいと考えます。

きれいな環境で健康とふれ合いの村づくりを進めると共に豊かな人間性と高度の教育文化の光を掲げてまいりたいと思います。

どうぞ明るく健康で充実した年でありますようお祈りして年頭のあいさつといたします。

年頭のごあいさつ

村議会議長　**山田　忠**

謹んで村民の皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

希望にあふれる昭和六十三年の新春を迎えましたことを心からお喜びを申し上げます。

皆様には平素、村議会の活動に対し暖かいご理解と、絶大なるご協力を賜り心から感謝申し上げます。

今日、地方自治を取り巻く環境は不透明な時代と言われる中で、農業の先行き不安と高齢化社会の進展でさまざまの分野において大きな変化が見られ、行財政運営の合理化が求められております。このような情勢に対応し、ますます多様化し、さらに高度化する住民のニーズと二十一世紀を展望する新しい時代の要請にこたえるべく、議会人としての努めとして努力してまいりたいと考えております。

現在、本村には農村総合整備モデル事業、公共下水道事業の着手をはじめ、良寛の里構想、地域に調和した企業の誘致など重要な課題が山積しており、村民一丸となって促進してまいりたいと思います。

村議会も活動を一層活発にして限られた財源を重点的に効率的に配分し、村民の皆様とともにその発展の可能性と実現の方策を考え、豊かな自然環境のもと、和島村に住むことに夢と誇りのもてる定住社会を築き、「誰にも誇れる和島村」の実現に精魂を傾ける所存であります。

年頭にあたり皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

首都圏ふるさとわしま会副会長　**阿部芳雄**

ふるさと和島村の皆々様、明けましておめでとうございます。

村民の皆々様には新たな気持で輝かしい新春を迎えられ謹んでお慶び申しあげます。

私共、首都圏ふるさとわしま会も満七周年を迎えこれも偏に郷土の皆々様のご支援とふるさとを愛する会員の協力の賜と深く感謝いたしております。

さて、国内を見ましても世間を取りまく環境は円高、豊作でありながら反面、減反及び過剰在庫そして農産物の自由化等、村民の皆々様にとりましては予断を許さない厳しい情況となっております。

二十一世紀を展望するに皆々様の生活に密着した基盤を村当局と一体となって築いてゆくことが果せられた問題かとご推察いたします。

本年は辰年であり、和島村の躍進の年として郷土和島村の益々のご発展とご繁栄を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

公民館長退職

田村公民館長が任期満了で、十二月十五日をもって退職されました。

村民野球場照明施設 教職員住宅 合同竣工式

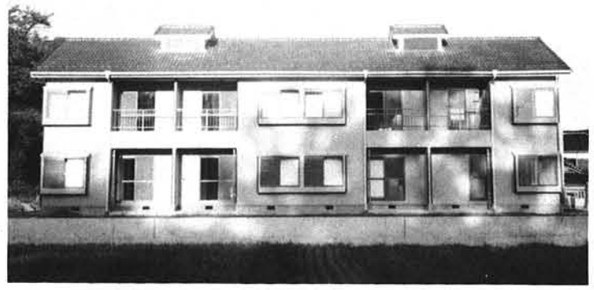
十一月二十一日、総合福祉センターで工事関係者や村議会議員、小・中学校長、村からは村長、助役、教育長らが出席し、村民野球場照明施設並びに教職員住宅の合同竣工式が行われました。

式典では村長の式辞や工事の経過報告が行われ、工事関係者に感謝状が贈られました。

ひきつづき祝宴が催されました。

村の将来を担う若い人たちの良き教育者を招くことができ、また、村民が広くスポーツを楽しむことのできる施設が完成しました。

◀村長のあいさつ　教職員住宅▶



年金積立金還元融資を受け、野球場夜間照明施設が完成しました!!

皆さんが納めた厚生年金・国民年金の保険料を積み立てた中から、地域の生活環境を整備するため、その一部が効率的に運用されています。

和島村では次の施設の建設資金に一部が融資されています。

＊昭和46・47年度	福祉センター	2,900万円
＊昭和53年度	村民野球場	2,160万円
＊昭和54年度	運動広場	3,990万円
＊昭和62年度	夜間照明施設	3,220万円

広げよう友情の輪 読者リレー

われら仲間シリーズ(55)

ある想い

羽鳥　節子さん（川端）

私は若い頃、大都会に憧れていた。

明治生まれの父のやる事など全く興味をもてなかった。

その父の趣味とは、山菜や茸採りで、いつも季節毎に野山を馳け巡っては採り、すぐ料理ができる様に丁寧に下準備をして台所に置いてくれた。だがその父も三年前の山菜採りが間もなくできる季節の春浅き頃、急病で逝ってしまい、後には父の作った〝蕗のとう味噌〟が一皿ポツンと残された。

父のいない生活にも慣れた頃何故か急に山へ行ってみたくなった。それまでに父に付いて山に行った事もなく増してや何処で何が採れるか等教えてもらった事もない。自分でも驚く変化だった。血筋か、父への郷愁か、それとも山菜が食べたくなっただけなのか?。

その日採れた山菜は、ほんの僅かだったけど、それをきっかけにして、季節毎に私も山に出掛けたい気持になったのは確かである。

人生半ばの年齢になった今、私は段々親の生き方に似てきた自分に気付いている。

大都会への憧れは、もう無い。

次は下小島谷の松永利治さんを紹介します。

明るい家庭づくり運動作文

和島村青少年育成村民会議
和島村教育委員会

大こんぬき

桐島小一年　池田　あつ子

はれの、日よう日に、おじいちゃんと、おばあちゃんと、おとうさんと、おねえちゃんと、わたしで、大こんぬきに、いきました。

「へんでんじょ」と、いわれている、はたけに、いきました。

大こんが、いっぱい、うえてありました。

わたしは、おじいちゃんの、大こんぬきの、手つだいをしました。

大きい大こん、小さい大こん、ふとい大こん、ほそい大こん、二本に、わかれている大こんが、ありました。

わたしは、いちいち、おじいちゃんに、「これ、ぬいていいの?」と、きいてぬきました。

でている、くきをしっかりもって、こしにちからを入れて、ぬきました。

大きい大こんは、ぬくのが大へんでした。

ほそい大こんは、スポンと、ぬけました。

大こんいっぱいぬいたら、つぎは、ちかくの、水のあるところで、あらいました。しゃがんで、あらったので、ズボンが、ぬれてしまいました。

ぐん手もしていたので、ぐん手まで、ぬれてしまいました。

大こんを、たばにして、あらいました。

おとうさんが、車に、大こんをのせて、いえへ、はこびました。いえにかえったら、みんなで、手わけをして、しごとをしました。

わたしと、おにいちゃんと、おねえちゃんで、大こんの「は」のいらないところを、きりました。

おじいちゃんと、おばあちゃんは、たくあんにする、大こんを、なわでしばっていました。

まめむすびをしたようでした。

わたしたちが、大こんの「は」をきったら、おとうさんと、おかあさんで、あらって、ゆでました。

ゆでるとき、かまから、フワフワゆげが、でていました。

ゆでた「は」は、こまかくきって、ふりかけにします。

まるで、小さな「こうじょう」みたいでした。

とてもたのしい一日でした。

てんごくにいったおじいちゃん

島田小一年　くすみ　ひろみ

わたしのうちは、九人かぞくです。でもこのまえから八人かぞくになりました。それは、十一月二十一日におじいちゃんがしんでしまったからです。

おじいちゃんは、九月に、ながおかのびょういんにゅういんしました。

まい日、おばあちゃんがびょういんにとまっておじいちゃんのかんびょうをしていました。ときどき、おかあさんやおばあちゃんやさいたまのおばちゃんもとまってかんびょうしました。せなかやあしをさすってあげたり、よるおきてトイレにつれていったりしました。

わたしは、おとうさんやおねえちゃんやおとうととおみまいにいきました。

はじめておみまいにいったとき、おじいちゃんはくるしんでいました。とてもかわいそうでした。かえるときに、わたしとおとうとと、

「おじいちゃん、はやくよくなってね。」

と、あくしゅしてきました。

おじいちゃんはにゅういんするまえ、げんきでした。まい日、あさはやくおきて、はなや木にみずをやっていました。わたしがあさがおにみずをやるのをわすれていると、やってくれました。そして、はたけにいってたねをまいたり、くさとりをしたり、やさいをとってきたりしました。

わたしがようちえんのとき、

バスのりばまでつれていってくれたこともあります。バスのりばはちかいのに、おじいちゃんはじてんしゃにのせていってくれました。おじいちゃんは、「ひろみはおもくなったなぁ。」とかいって、いろいろはなしをしてくれました。

おじいちゃんは、わたしやおとうととあそんでくれました。じゃんけんしたり、おにごっこをしたり、かげふみをしたり、とてもたのしかったです。でも、もうおじいちゃんとあそぶことはできません。

おじいちゃんは、十一月二十三日の十じにけむりになってのぼっていきました。

おかあさんもおばあちゃんもおばちゃんもみんなないていました。わたしは、おかあさんがないたのをはじめてみました。とってもかなしかったんだとおもいます。おとうさんはなかなかったけど、とってもかなしそうでした。わたしもかなしくて、ちょっとなみだがでました。

でも、おじいちゃんのかおはにこにこしていました。

おじいちゃんがげんきなときは、かぞく九人でごはんをたべました。いまは八人です。

ごはんをたべてると、おじいちゃんのかおがみたくなってちゃのまへおじいちゃんのしゃしんを見にいきます。おばあちゃんがおかしをたべるときは、ちゃのまのおじいちゃんのところでたべます。

おじいちゃんはかみさまになって、てんごくにいったとおもいます。そして、てんごくで、わたしたちみんなのことをみているとおもいます。だから、わたしは、いい子でいようとおもいます。

おかあさんのしごと

桐島小二年　宮田　真理子

わたしのおかあさんは、今、かいしゃを休んでいます。

十月に妹のさえ子が、生まれたからです。

だけど、うちでさえ子のおもりをしたり、ごはんを作ったり、そうじをしたりして、とてもいそがしいです。

わたしは、そんなおかあさんを見ていると、おかあさんってとってもたいへんだなあと、思います。でも、わたしは、まだおとなではありません。だから、おかあさんのように、ごはんを作ったりそうじをしたりできないけど、早くおとなになって、おかあさんの手づだいをして、あげたいと思います。

でも、おかあさんは十一月十六日になると、また、かいしゃへつとめに行きます。

まだまだ家にいてほしいです。

おかあさんは、かいしゃへ行くと、もっともっとたいへんです。でも、かいしゃへ行かないと、おきゅうりょうがもらえないから、しょうがないと思います。わたしは、そんなおかあさんにかんしゃしています。

だから、たまには、「おふろ」の中でお話をしたり、かたをもんだりしてあげます。

おかあさんは「おふろ」の中で、わたしが、かたをもんであげると、「あんまさんになれ。」というのです。

わたしは、

「なってもいいけど。」

と、答えます。

また、おとうさんは、とこやになれば「いい」といいます。

わたしは、どっちをえらべばいいかわかりません。それに、私は、デザイナーになりたいと思っています。

でも、おとなになるまで、ほんとうは、わかりません。おとなになるまでの間に、ゆっくり考えれば、「いい」と、思っているからです。でも、自分の道は、人にたよらないで、自分できめたいと思っています。

いまはまだ小さいですが、早くりょうりがうまくなると「いい」なと思います。

そして、おかあさんに食べてもらおうと、思います。

とてもいそがしいおかあさん。どうも、ありがとうございました。

おもたいバケツ

島田小二年　くすみ　かな子

日曜日、家の中でおとうととぼくの二人で、おもちゃのボールをころがしてあそんでいました。そしたら、家の前のはたけで、一人でしごとをしていたおばあちゃんが、

「はあい。」

とへんじをして、あそびをやめました。

はたけに行くと、おばあちゃんが、バケツのそばでまっていてくれました。おばあちゃんが、

「なすをいっぱいとったけど、もっていこうとしたけど、おもいから、いっしょにもっていこう。」

といいました。わたしは、バケツの中を見てみました。バケツの中には、ほそいなすや、まるいなすが入っていました。なすといっしょに、トマトも入っていました。わたしは、学校の「すずかけのうじょう」のことを思い出しました。わたしたちが学校でつくっているなすは、おばあちゃんのなすより大きいです。でも、おばあちゃんのつくった小さいなすの方がおいしいなあと思いました。おばあちゃんと二人でバケツをもちました。おばあちゃんは、なんぎそうにもちました。

わたしは、

「おばあちゃん、わたし、もう一人でも、もっていけるからいいよ。」

といいました。おばあちゃんは、

「そっか。」

といって、また、はたけに行きました。わたしは、りょう手でバケツをもってながしだいまで行きました。一人でもってもそんなにおもくはありませんでした。

わたしは、また、おとうととさっきのつづきのあそびをしました。おばあちゃんは、はたけで何をしているのかわかりませんが、わたしたちと同じで、はたけのつづきをしていると思いました。

わたしは、こう思いました。きっと、おばあちゃんは、はたけしごとや田んぼしごとをいっぱいしたから、一人でおもいバケツがもてなかったんだな。つかれて力が出なかったんだな。

なすをつくる時も、何日も、何日もこやしや水をやっていました。この時は、おばあちゃんがだまっていたので何もてつだいをしませんでした。こんどからおばあちゃんがだまっていてもてつだってあげようと思います。

おばあちゃんは、がんばってはたけしごとや田んぼしごとをしたので、こしがまがったのかなと思いました。もっとこしがまがらないように、これからもがんばっていっぱいおてつだいをしようと思いました。

親の仕事とある日のようす

桐島小三年　早川　直子

わたしの家のお父さんと、お母さんは、同じ会社につとめています。だけどそれぞれちがう仕事をしています。お父さんは、ブロックの仕事をしています。

お母さんは、何か、メモをしていたりしています。

お母さんがいそがしいときは、わたしが、すみれの子もりをします。

お父さんと、お母さんは、車で、五分もしないところでつとめています。

お母さんは、朝、早くおきて、げんかんはきなどします。そして、朝食のしたくをします。

お父さんと、お母さんは、わたしが学校へ行ってから会社に行きます。

お父さんがさきに行ってから、すみれと、お母さんが家のかたずけをして行きます。

会社につくと、お父さんは、ブロックをはいたつしたりブロックを作ったりします。

お父さんは、自分の計画どうりにならないからくろうしているようです。

お母さんは、じむしょで、メモをしたりしゅう金に行きます。会社の仕事が終ると、お父さんは、パチンコに行ったりともだちの家に行ったりします。

いつも、おそく家に帰ってきます。

お母さんは、会社の仕事が終わると、かいものに行きます。

いそがしいときは、わたしがチップをさんぽにつれて行きます。

十一月十八日のことです。お母さんが夕食のしたくをしました。

それから、夕食を、お母さんと、すみれとわたしの三人で食べました。

だけど、やはりお父さんは、帰ってきませんでした。

そのあと、お母さんと、わたしと、すみれでいっしょにテレビを見たり、リンゴを食べました。

そして、おふろに入ってから、お母さんは、ふとんの上で本をよんでいました。

わたしが、

「日よう日に雪がふるみたいだよ。」

と言ったら、お母さんが

「雪なんかふらなくていいのに。」

と言いました。

わたしが早く雪がふるとあそべるからいいのに、と思いました。だから

「なんで。」

とお母さんにきいたら、

「だって雪がふるとさむくなるから。」

と言いました。

朝になったら、お父さんがいつのまにか帰ってきて、ふとんの中でねていました。

お母さんより、お父さんの方がお金をいっぱいもらっています。

だからお父さんは、ときどき何かいっぱい買ってくれます。人形や本を買ってくれます。

もちろん、かぞくのたんじょう日のケーキを買ってくるのは、お父さんです。

わたしのたんじょ日のとき、かならずケーキを買ってきてもらいます。それは、お父さんが会社へ行くまえに、

「ケーキ買ってきてね。」

と言うからです。

すみれのたんじょう日のときは、お母さんが、てづくりのケーキを作ってくれたときもあります。お母さんのたんじょう日は、お父さんがケーキを買うのをわすれるときがあります。

でも、お父さんは、自分のたんじょう日のときだけケーキを買ってきません。

そのときは、おじさんたちと、のみに行っているのかなあ、とわたしは、思っています。

いねかり

島田小三年　小谷松　泰之

九月にいねかりがありました。いねかりの日はおとうさんもおかあさんもおとうともぼくも田んぼにいきました。ぼくの家にはコンバインがないので、まい年ほかの家の人にたのんでかってもらっているので、おとうさんのしごとは、こめを家まではこぶだけです。ぼくの手つだうことがあまりないのでつまんないです。今年はじめて、ぼくもお父さんといっしょにこめをはこぶことにしました。車にこめをのせるためにこめぶくろをもってみたら、あまりおもいので、うしろにひっくりかえってはらの上にこめぶくろがのってうごけなくなりました。そうしたらおとうさんがわらって

「四年生になったら、おまえも持てるようになるよ。」

といいながら米ぶくろをとってくれました。

ぼくが、

「本当にもてるようになるかな。」

ときくと、

「本当にもてるようになるとも。」

と、おとうさんがいってくれたので、うれしくなりました。そして、らい年がたのしみになりました。

はやと君のおとうさんがコンバインでかって、まだのこっている所をぼくはおとうさんとのこぎりがまでかりました。左手にいねを自分で持てるくらいにぎってのこぎりみたいなはでグサッときりました。力を入れてかるので両手がいたくなりました。めんどうくさいしごとだなと思っていやになってきたけど、がんばりました。やっとで一まいの田んぼがおわりました。

それから、つぎの田んぼにうつりました。その田んぼは、水はけがわるくて、かどの方に水がたまってドボンドボンしていました。だから、コンバインを入れたらもぐってしまいました。はやと君のおかあさんがおしたらなんとかでられたのでよかったなと思いました。

はやと君の家の人からかってもらっているのではやと君も来ました。ぼくは、はやと君といっしょにはこびました。おとうさんと、じょうすけのおかあさんもはこびました。はやと君のおかあさんはコンバインについてあるいていっぱいになったふくろをおろしました。三時ごろまでやりました。

こめを全ぶのせおわった時、おとうさんが

「たすかったよ。」

といってくれました。ぼくは、

「また、らい年もてつだってあげるよ。」

といいました。

いねかりをしてみて、きかいをつかってもやることがたくさんあってたいへんなんだなと思いました。

いねかりがおわると、コンバインのエンジンをかけっぱなしにしてはやと君の家の人がかえったのでおかしいなと思いました。二十分くらいすると、はやと君ちの人がトラクターにのってもどってきました。そしてトラクターのにだいにコンバインをのせようとしました。そうしたら、トラクターにかけていた板からキャタピラがはずれそうになったので、ぼくは、あわてて

「ストップ」

と、大声でいいました。そして、また、やりなおしをして、きちんとつむとかえってしまいました。あとから見にきたじょうすけのおとうさんといろいろ話したあと、ぼくは、自てん車で家にかえりました。

一日おてつだいをして、つかれたなと思ったけど、こめのふくろをもたれるようになるかららい年もやってみたいです。

協力し合う家庭

桐島小四年　羽入　健

ぼくの家は、農家です。学校から帰って来ても、るすの時もあります。とくに、春と秋は、田にとてもいそがしいから大変です。だから、みんなで助け合って仕事をします。

おばあちゃんが、

「犬のさんぽいってきてくれ。」

と、言うと、ぼくはいやだけどおばあちゃんはつかれているんだからやります。犬は、おばあちゃんの方が喜ぶけれど、遊ぶならだれでもいいのでしっぽをふっています。ぼくが帰ってくると、おばあちゃんが喜んで、

「ありがとう。」

と、言います。

お母さんがいそがしい時にてつだいをするのは、げんかんはきの手つだいです。げんかんはほうきでさっさっとはきます。終わったら今度は、げんかんのくつそろえをします。いつもくつやサンダルをはきやすいようにきちんとそろえるのです。もう一つのお手つだいは、ろうかふきのお手つだいです。ろうかふきは、ぞうきんでしぼってします。ろうかは、日が一番当たる所なので、かわいてきたなくなったように見えます。でも、すみずみまでふいたら、とても、きれいになります。お母さんが、

「ありがとう。ありがとう。」

と、喜んでくれます。雨がふった時はせんたく物を入れます。雨が、「バシャバシャ。」と、ふっている時は、おばあちゃんが、

「たけし。せんたく物、入れてくれれや。」

と、ぼくにたのみます。ぼくは急ぎます。そして自分の手が、せんたく物にとどくのがやっとなのであわてます。あわてると、せんたく物が落ちて、よごれたり、すべってころんで、せんたく物がひっかかったりします。でも、うまくやった時には、

「ありがとう。」

と、ほめられます。

ねこのキャメルは、ねずみを取ることが仕事です。ねずみを取ってくるとにぼしをあげます。ねこのハチは、ねずみを取ってこないからあげません。お母さんが、

「よした。よした。いい子ちゃん。」

と、言って、キャメルをほめてあげます。

ぼくとねこはおてつだいをすると、いつもほめられるのでやる気がどんどんわいてきます。

ぼくのうちで家族みんなで協力している事は、おばあちゃんを大切にしていることです。おばあちゃんは、とても冬がきらいです。だから、みんなでおばあちゃんのてつだいをしようと思っています。おばあちゃんは、体がとてもよわいので、ぼくたちはとてもしんぱいしています。だから、つかれている時は、かたをたたいてやります。それにとしよりは、うるさいのがいやなので静かにしてやっています。

おばあちゃんと田植のてつだいをしてみました。どろんこになってこしがいたくなったけど、おばあちゃんはよくがんばるのでえらいなあと思いました。ぼくと、おにいちゃんに、アイスクリームや、チョコレートなど、おいしいおやつを買ってくれるのも、おばあちゃんです。だからみんなで、東京へ行った時おばあちゃんにおみやげを買ってきてやりました。おばあちゃんはとてもうれしそうでした。

おばあちゃんにわからない事があったら、ぼくは教えてやります。すると、おばあちゃんは、

「ありがとう。」

と、うれしそうに言います。

このようにみんなが、にこにこして協力してくらすと、とてもたのしいのでこれからも努力して行こうと思います。

ぼくのそ父

島田小四年　長谷川　愛之

ぼくの家のそ父は、工場で働いています。工場には、鉄板やパイプなどがあります。左すみには、せんばんがあります。そこがそ父の仕事場です。

工場でせんばんにむかっているそ父の目は真けんです。小さな台の上にあがって、せんばんのレバーを引いてからハンドルをまわして、あなのふかさを決めています。ジュルルルと音をたてて太いパイプのあなを大きくしたりします。

ずうっと見ているとあせをたらしながら、メガネが半分くもっているのに、気がつかないのか、そのまま続けています。仕事がひといきついたのか、やっとメガネのくもりに気がついて作業服でメガネをふいています。その時のうしろすがたは、なぜかほっとしたようです。

メガネをふきおわるとまた、真けんな顔になります。機械でけがをすると大変だからでしょうか。家にいる時と顔がかわったようです。でも、こんなに気をつけてやっていても、そ父には、けがのあとが残っています。右手の小指を機械にはさんで今

でも動かないそうです。キャッチボールの相手になってくれる時小指のうごかないほうにボールがいきます。そんな時、機械にはさまれた時のことを思い出すだろうなと思います。真けんに仕事をしているそ父に、心の中で、「けがをしないようにしてよ。」と言いました。

お昼休みに家に帰ってきて、ねる時もあります。ぼくがいたずらで鼻をこちょこちょしても、ちっとも起きません。よっぽどつかれているんだなあと思いました。

仕事が終って家に帰ってくるのは、夜の七時になります。帰ってきてから、村の仕事があって書類を整理している時もあります。つかれているのに大変だなあと思います。その時ぼくは、二かいへいっています。また会議があって出かける時もあります。そんな時には、ぼくが、

「いってらっしゃい。」

というと、そ父は元気よく

「はい。」

と言って出かけます。工場の仕事以外の事もいっしょうけんめいです。

いそがしいそ父がほっとする時間は、たばこをすっている時だと思います。その時そ父は、ためいきをつきます。その時に、つかれているし仕事が大変なんだなあとぼくは、思います。でも一日の仕事が終って安心したんだなとも思います。その時のそ父の顔は、まるで四角いさとうがおゆにとけたようになります。

そして日曜日には、そ父はぼくたちとあそんでくれます。その時に、いつもぼくがもっているレーサーミニ四くであそびます。そしてゆうすけがそとにキャッチボールをしようというとそ父は行ってぼくはミニ四くをもってついていきます。ゆうすけとだけそ父はキャッチボールをします。キャッチボールをするそ父は、ぼくが思っていたより上手です。

ぼくは、そ父に長いきしていつも元気でいてぼくたちとあそんでほしいです。

みんなで力を合わせて

桐島小五年　早川安奈

私の家は畳屋です。畳屋を開業したのは、昭和十年ごろで祖父が始めたのだそうです。

そのころは、能率の良い機械もなく、全部手で作ったということです。今のような機械が入ったのは、父が小学校の六年生のころだそうです。

畳はいろいろな材料で作られます。だから材料によってねだんもちがいます。

その中でも、私の一番好きなのは、やっぱり昔からある「わら」で作った畳です。「わら」というものは、田にできる稲からとれるのです。私の家では、わらの集荷があるために、四季の中で秋が一番いそがしいです。その中でも特にいそがしいのは、九月のはじめから十月の半ばごろです。去年は、終わるのがおそくて家族みんながたいへんでしたが、今年は天気がよかったのと、休みを全くとらずにがんばったので予定より早く終わりました。

私も「わらとり」を手伝ったことがあります。私が行くのはたいてい午後の三時ごろですが、父と母が行くのは朝の四時ごろです。

私はもちろん、家族みんなが眠っている間にでかけて行くので、全くわかりません。行く先は、栃尾市の山の中とか、出雲崎、西山の方面です。そして、私が学校へ行くころに帰ってきます。このいそがしい秋の早ごはんは祖母が作ってくれます。

父と母がわらをトラックの上に乗せるのを見ていると「すごいなあ。」と思います。それは、父がトラックの上に乗って、母が投げるわらを受け取るのですが、実にかたむかないように上手に並べることができるからです。

母は下にいて、下から上にむかってわらを投げます。わらの一束まるけは、けっこう重たいのです。それに投げれば投げるほど、高さが高くなるので、上にいる父の姿が見えなくなることがあります。父は、「まん中」とか、「前の方」と声をかけてやっています。そこの所に母がわらをうまく投げています。母は力がいるし、父は技術が必要だと思いました。母は、父の言いつけどおりになげられるのに、私は、二メートルぐらいしかわらをなげることができません。やっぱり母にはかなわないと思いました。

母は、男仕事を秋だけしているので、たまに「こしが痛い」と言うことがあります。それと秋は、従業員の人達が稲かりで休みをとるので人手が足りなくなり、母や祖父も工場に出て一生けん命に働きます。母のいつもの仕事は、家で事務をすることなのに、工場で働く分、仕事がたまるので、夜、遅くまで続けています。そういう時は寝不足になるそうです。

私の家には、大きい倉庫が四つあります。秋になれば四つの倉庫はぎっしりとわらが入ります。一つには畳の材料が入っています。

毎日毎日、畳を百二十枚ぐらいも作るので、倉庫のわらもだんだん少なくなっていき、倉庫に集めたわらだけでは一年間もたないそうです。それで、わらを専門に運んでくる人がいます。この人達は、山中から三時間もかかって運んでくるそうです。

家の裏には、畳を作る工場があります。この工場で畳床を作って、げんかんでへりや表をつけて新畳を作ります。これは父の仕事です。へりは注文する人によっていろいろですが、種類もまた沢山あります。

ナイロンでできている物は、光ってきれいだし、綿でできている物は、もようがなくて一色で、黒とか茶とかでできています。本当にきれいな布です。

それから表ですが、表はい草でできています。表も、ねだんによっていろいろな種類があるそうです。でも私には、全部同じように見えます。父の仕事を見ていると大変おもしろいと思います。

畳床に、へりや表をつけて、きれいになって新畳になるところは、私達が体に洋服を着ていくみたいでおもしろいです。

昔にくらべて、今は仕事が楽になったとはいえ、父や母の仕事は決してなまやさしいものではないと思います。私もできることは手伝うようにして、家業の畳屋がはんじょうするように、みんなで力を合わせて、これからもやっていこうと思います。

わが家の歴史

島田小五年　小林麻美

わたしは、テーマの中にわが家の歴史というのがあったので、うちにはどんな歴史があるのかと思い、知りたくなりました。それでおじいちゃんに話を聞いてみました。

うちには新宮様という神様があります。くわしいことを知らないので、このことから聞きました。

うちは、和歌山県新宮市からつごうにより、うつってきたといわれています。

先祖が新宮社の神主をしていたので、うちの神様は新宮様というのだそうです。和歌山県からなぜこんなに遠い新潟県まで、うつって来たのか不思議です。もうちょっと近くの県などへうつれば、かんたんでよかったんじゃないかなと思いました。そしてこんなに長いきょりをよくあるいてこれたなあとも思いました。今でなら、飛行機や新幹線などの便利な乗り物があるので、かんたんにすいすいといけます。むかしの人はすごいということもわかりました。

毎年十月十五日にわたしのうちで小さなお祭りをしています。秋に実った米、野菜、果物などをそなえます。そしてあとで、あがったものを食べます。また近所の分家の人が二、三人来ます。

お祭りの前に、新宮様の回りをうちの人たちでそうじをします。木の葉がたくさん落ちていて、上の方はかわいているのでかんたんにはけるけど下の方はしめっているのではくのに苦労します。きれいになったのをみて神様がよろこんでくれたらなと思います。

何年くらい前からあるのかなと思ってきいてみたら、

「四百五十年くらい前からじゃないかな。」

といっていました。ふるくからあるんだなと思いました。

おまいりをするとき、神様の顔がどういう顔をしているのかなと思っていつもよく見ています。目もとをじっと見ているとなんだか、わたしがにらまれているような感じがしてきます。

体全体を見るとなんとなくわらっているような、にこやかな顔に見えます。どうして、こんなにちがうのかといつも思います。そろばんの検定のときなど、おまいりをするとうまくいきます。うちには、こんなにいい守り神様があってとてもうれしいです。

それから、わたしの家はこんな家です。入口の道が長く、少し高いところにあって良い水がでて、まわりを小高い山にかこまれています。そのため、日が早くかげってしまい、雪がふるとなかなかとけません。それでおばあちゃんが、

「早く雪がとけないでこまる。」

と毎年のように言っています。

でも悪いことだけでなく、この山があるために、大風の日はほかの家にくらべてあまり風があたりません。このことは知らなかったんだけど、少したかいところにあるので、大水がでても、家まで水がこないのだそうです。

たくさん歴史があり、そしてとてもよいところにあるうちを、わたしは大事に、大事にしていきたいと思います。

明るいぼくの家

桐島小六年　藤井潤也

ぼくの家では、家を明るくしようといろいろなことをやっています。

そのことについて書いてみましょう。

まず第一に、夕食のときなどは、なるべく家族みんなでいろいろな話をしながら、楽しく食べるようにしています。

ぼくの家は、前まで家族がそろわないまま食べていたことがありました。

全員そろったとしても、大人と大人どうしが話し、ぼくたち兄弟は、何も話さず食べていました。

どうして、家族で食べるようになったかというのは、妹が、「大人ばかりで話をするのはずるいよ。わたしたちも、仲間にいれて。」と言ったからです。

それからは、家族みんなで仲よくにぎやかすぎるほどに話をもりあげながら、夕食などを食べています。

そして夕食の時間が、とても楽しいものになりました。

ぼくの家が明るいわけはまだあります。

日曜、祝日となると、みんなでデパートに行ったり、海水浴に行ったりして楽しく休みを利用していることです。

だいぶ前のことですが、海水浴に行く予定でしたが、あいにく雨が降り海水浴には行けなくなりました。すぐやむかと思っていましたが、なかなかやまずだんだんはげしくなってきたので、母が

「今日は一日雨が降りそうだから、デパートでがまんしようか。」と言いました。

ぼくたちは、その意見に大賛成でした。雨のために、一日おとなしく家にいなければいけないとあきらめかけていたからです。

こうして思い出すと、ぼくの家は、休みのほとんどが、どこかへ出かけていて、とてもいい思い出をつくっています。

また、家の人と心のこもったあいさつを交すことも、家庭を明るくする方法だと、思います。

ぼくの家では、朝起ると、

「おはようございます。」

と朝のあいさつをします。

当り前のことだけど、あいさつをするというのは気持ちのよいことです。

今日も一日がんばろうという気持ちになります。

家の人が仕事から帰ってくるとき、「おかえりなさい。」と声をかけますが、その声で父や母は一日の疲れがとれるそうです。

このように、あいさつをするということも家を明るくする方法の一つでしょう。

そのほかに、家の人の仕事の手伝いをすることもいいことだと思います。

ぼくのやっていることは、金魚のえさやりや植木への水やりなどです。

妹は茶わん洗いなどをしています。

家の人も疲れているのだから、手伝いをしてあげるのは当り前のことでしょう。

家の人も、

「手伝ってくれてありがとう。」

と言ってくれます。

そうすると気持ちがよくなります。

家族全員で部落行事に参加することも大切なことだと思います。今年の夏も部落で海に行きました。

家族で行く海水浴とはちがった楽しみがあります。

他の家族の人とも仲よくなれるし、大ぜいの人と泳ぐと楽しく感じます。

それに、今までよく知らなかった部落の人と親しくなると、いつでも気軽に話ができるようになります。

部落の人が家族の一員のような気になるからだと思います。

相手の立場や気持ちを考えて行動することは、学校でも大切なことですが、家を明るくするのにも必要なことでしょう。

そうやって考えていくと、家の中を明るくする方法はたくさんあるようです。

家の中が明るければ、何をしていても楽しいのです。

困っていることがあるとき、いつでも話のできる相手が家族だと思います。

ぼくは、兄弟げんかをしないように注意しています。

もし、けんかにでもなったら、せっかくの楽しい気分がこわれてしまうからです。

家族を大切にして、みんなで力を合わせて明るい家庭を、今よりももっと明るくしていきたいと思います。

父の毎日

島田小六年　青柳優子

私の父は、巻中央自動車学校に勤めています。朝は私達が学校に行くのと同じで七時二十分ぐらいです。帰りはおそく夜八時半すぎになります。日曜をぬかし夜は一緒にごはんを食べられません。母は、みんなでごはんを食べたいと言っていますが私は、それは仕事だからしかたないと思います。……。

夜、父が帰ってきて

「ただいま。」

と、ぐったりした声が聞こえます。私が

「おかえりなさい。」

と、いうと

「まだおきてたか?。」

と言いました。私はその声を聞いて(すごくつかれているなー。)と思いました。母が

「おかえりー。」

と、二階からおりてきました。母は台所に行きお酒をあたためていました。私は、またおきているとしかられると思いおふろにはいりねました。ねていて十一時ごろふっと目がさめると、階だんをのぼってくる音がひびき戸をしめる音がバタンと聞こえました。

「こんなにおそくねて朝大丈ぶかな?。」

と、私は思いました。

次の朝、私は、六時十五分ごろ目がさめました。まだ父はおきていません。六時四十五分ごろねむたそうな目をしておきてきました。

「おはようー。」

と私が大きな声でいうと

「お前は元気だな。」

と、少しわらっていました。私たちが学校へ出かけると同時に父も家をでました。

日曜には朝七時ごろおきてきました。パンとコーヒーの朝食をとり着がえて外にでました。私が、

「これから、何するの?。」

と聞いたら、

「冬囲いをするー。」

といって、なわや、はさみや竹を切ったのとかもってきました。妹が、

「私も冬囲い手伝うー。」と走ってきました。時々

「ゆうこー、ここどうだあー。」

といってくるので

「えー? う〜んちょっと曲がってる。」

とか言います。昼からは野球の用事で、和島の野球場へいきます。私はつくづくいそがしい人だなぁ。と思います。

この前の日曜日、父の同級会がありました。

私が、

「同級会、楽しみらー?。」

ときいたら、

「なつかしい人と会えるっけなー。」

と、わらって、

「いってきます。」

と出かけていきました。私は、(同級会かあーいいなぁー)と思いました。だけど同級会がすぎれば父はまた会社。だけどわらって、「いってきます。」という明るい声と、がんばってこいという父の声で元気が出ることだっていっぱいあります。これからもいっしょうけんめい会社がんばって下さい。

家族そろっての畑作り

北辰中一年　下村寛和

僕の家では、家の前に大きな車庫をつくりました。そのため、今まで置いてあった車のポンコツを他へ動かしました。そうすると、裏の方に少し空き地ができました。父は、そこへ畑をつくろうと言い出しました。

僕は反対意見でした。なぜかと言うと、そこを家族みんなの遊ぶ所として、例えば、キャッチボールとか、バドミントンをしたいなと思ったからです。しかし、父は意見を変えませんでした。それに、父はそこへ前もって畑をつくるために、風除けもつくってあったからです。だから、僕もしかたなく、父の意見に従いました。

ある日の日曜日にその畑のうね作りをすることにしました。父はくわで土をもり上げていきました。僕は、家にはくわが一挺しかないので、スコップで土をもり上げていきました。母と妹は石拾いをしました。妹は最初、数をかぞえながら、楽しそうに石を拾っていましたが、だんだん、うんざりしたようで何も言わなくなりました。しばらくして父が、

「スコップとくわ、変わるか？」

と、言いました。僕はうなづきました。しかし、くわをふりおろすと、カチン、カチンといって、石ばかり出て来ました。すると、父が、

「石が多いだろ。」

僕が、

「なんでら？」

と、聞くと、父が、

「この前、車庫を建てた時に、土方が、土を掘って出てきた石を、こっちに投げたからだよ。」

と、言いました。

僕は、なるほどと思ってからまた仕事をやりはじめました。

しかし、しばらくやっていると、手がだんだんだるくなって、汗が出てきました。すると父が、

「ここで少し一服するか。」

と、言いました。

みんなも賛成しました。そして、母がアイスを持って来ました。みんな、家の犬走りの所に腰かけて食べました。

そうして、ひと休みしていると、また仕事をする元気が出て来ました。

また、みんなが一生懸命、仕事をしました。体じゅうがだんだんあつくなっていくような気がしました。

しばらく、そうして仕事をしていたら、いつの間にか辺りは薄暗くなっていました。そのころ母は夕食をつくるために家の中へ入って行きました。

そうして、やっとうね作りと石拾いをやりとげた時は、辺りは真っ暗でした。

そして、父が、

「みんな、よくがんばった。」

「二人もずいぶん、成長したなぁー。」

と、僕と妹に向かって言いました。

僕は仕事をやりとげたあとの充実感でいっぱいでした。

そして、夕食を食べている時に、家族みんなで、今日の仕事の話をしました。

父が、

「みんな、今日はよくがんばった。」

「寛和も中学生になって、たいへんな仕事も、途中で投げ出さずにがんばるようになったなぁー。」

「北海道などに開拓に行った人たちは、僕たちの仕事より、もっともっとたいへんだっただろーね。」

などと、みんなでいろいろな話をたっぷりしました。

このように、僕の家では、遊びとかだけで家族の仲を深めたりするより、家族みんなで、一生懸命、力をあわせて、一つの仕事をやりぬくことで仲を深める方が多いです。

それに、僕の家では、キャッチボールとかをする遊びの時間があまりないし、みんなも口で言うだけで実行しません。それに、父は日曜日でも、仕事に行くことが少なくないから、よけい時間がなくなってしまいます。

だから、忙しいあいだにも、みんなで一つの仕事をやって、一つのことをやりとげ、助けあっていく家族、そんな家族をつくっていきたいと思っています。

父と僕

北辰中二年　早川裕道

今、僕は父のことを「好きだ。」「嫌いだ。」とはっきり言う事はできません。ただ僕にとって目標であり、すごく大きい存在だということは確かです。

父はスポーツが得意です。僕は三人兄弟の長男で三人の中では、一番スポーツをするのでよく父に相手をさせられていました。その他、いろいろなスポーツをするたびに父にいろいろ指導されたりして少しずつ上達していったので今までは、父の事が好きだと思っていました。しかし、中学校に入学してだんだん自分の意志をはっきりもてるようになってからは、単純に好きだとは思わなくなり嫌いだという気持も強くなってきました。理由としては父の短所、長所がはっきりとわかってきたからだと思います。

父の短所、それは短気なことです。父の事を悪く言うのは良くないと思っていますが、僕自身、父に似て短気なので父が短気な事がよくわかるのです。

例をあげてみるとすれば、仕事の事を話合っていて自分の悪い事になるとすぐ機嫌が悪くなり、話合いをやめてしまったり、また体の調子が悪いと機嫌が悪くなって、他の人に迷惑をかけたりするのです。

つまりには、全体的にわがままなのか、それとも自分がやっとで考えた事を他の人に多くどうこういろいろと言われるのが嫌なのかはわかりませんが、とにかくまわりに気持ちが左右されるのが嫌なのでしょう。この事は、僕はとても嫌いなので父に直して欲しいと思います。

その反面、短所が多い分長所も多くあります。

最初に述べたとおりに、なんてったってスポーツが大好きで中でも陸上と卓球が好きですし、僕も陸上が好きなのでよくその内容の話をするのですが、例をあげるとすれば「今も昔も中学校には陸上部がないけどどうやって練習をしたの。」と聞くと「卓球部の体力作りとしてグラウンドを走りこんだ。」と言っていました。本当かどうか父の同級生の人などに聞いても「グラウンドをよく走りこんでいた。」などという答えが聞かれました。試合の結果は、陸上で三島郡では良い成績をおさめたそうですし、卓球では体力作りが良かったのか県大会で入賞したそうです。

僕はこういう自分の好きな事を一生懸命がんばるというのは父の長所でないかと思います。他には、僕が出場する陸上の試合が近くなり練習すると、「記録はどのくらいだ。」「お前の記録のレベルはどのくらいでその大会で通用するのか。」と自分の事のように心配します。

また、たまに父は、試合を見にくると必らず、

「走っている時の上下動きが大きい。」

「走っている時につかれてくるとすぐ顔に出しすぎだ。」などと聞いてもいない事を一流の専門家になったつもりで言います。

これだけ熱心に話すという事は、僕に期待をかけているんだと思います。僕もそれにこたえようと試合でがんばろうとすると、試合直前に無理をしすぎて、足を痛めたり病気になったりして期待にこたえられる成績にできません。そのたびに父は「お前はだめだ。」と言います。この言葉は、その試合のくやしさを次の試合にぶつけてほしいという父のはげましの言葉だろうと思います。自分の事でもないのに一生懸命になったりすることも父の長所だと思います。

最近では父と僕は、来年の受験や将来の進路などの話をするようにしていますがどうしても話す気にはなれません。父の言う事がわかるからです。勉強して行きたい高校へ行き、将来は畳屋をついでくれと言う事が。

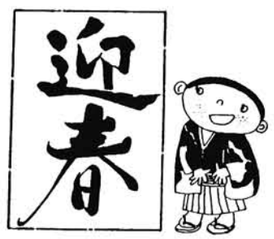
僕としては畳屋になる気はありません。理由としてはまず畳屋よりやりたい職業があるからです。又、僕より弟の方が商売する人に必要な、人をひきつける力があると思うし、弟自身も畳屋になりたいと言っているからです。

祖父と父が築きあげた畳屋は、どこのどんな畳屋より立派だと思います。しかし、それを今以上に良くする自信がないからです。ということです。

少し大人びた理由かもしれませんが「僕には他の職業をしたい。」「むいていない。」という気持ちが強いのです。

だが、父が畳屋になれという事は僕に期待していることだと思います。しかし、父の本当の気持ちはわかりません。もし畳屋になるということが父の最高の願いで、これまでの恩返しになるならば気持ちが変わるかもしれません。これは僕としての考えであるので父ともっと話し合わないといけません。

そしていつまでも、父の短所、長所が少しずつでもわかる僕でありたいと思います。



家族

北辰中三年　早川芳久

最初に、家の家族構成を話します。家は母、兄、姉、それと僕の四人家族です。

母の名前は、百合といいます。母は、六月八日生まれの双子座です。年を言うと、怒られそうなので、やめておきます。母は、今、会社で働いています。僕達の生活をささえていくために、毎日、毎日遅くまで、残業をして帰って来ます。さきほどの家族構成を見てもわかるとおり、家は母子家庭なのです。僕が一歳の時、父は、工場の事故で亡くなりました。その時、幼かった僕は、父の思い出を一つも覚えていません。そんな僕を、女手一つで育ててくれた母。いや僕だけではありません。その時四歳だった姉、九歳の兄、この三人の子供を、ここまで育ててきた母を、僕は尊敬し、誇りに思っています。

そんな強い母でも、目から涙がこぼれ落ちる時があります。僕達が悪ふざけをした時や、母の言うことをきかない時は、すぐ怒る母ですが、その後は、明るく、やさしくしてくれる母。だが、これが、ちょっと、いきすぎると、僕達を座らせ、説教をします。その時、

「家は、父さんがいないから、しつけが悪くて、何も言うことをきかない……。」

と、泣きながら言うのです。その時は、僕もつらくて、しかたがありません。

「別に父さんなんか、関係ないよ。」

と言っても、それは、やっぱりうそです。だから、父がいないから、どうのこうのって言われぬようにしていきたいです。

今まで、「家庭の日の作文」と言うと、父がいないせいか、あまり書きたくありませんでした。だが今は違います。今まで僕は、こんなすばらしい、皆に自慢できるような母に気づいていなかったのです。母には、いつまでも、いつまでも長生きをしてもらいたいと思います。

兄の名前は、保久といいます。兄の生年月日は、昭和四十年二月二十二日生まれの魚座です。今は、東京の電気会社で働いています。父がいないこの世の中で一番こわい存在です。父が亡くなった時、兄は九歳でした。九歳というと、両親や身内の存在を、強く感じ初めるころだと思います。その せいか、兄は、父を亡くし、自分でやらなくては、という気持ちが強くなり、しっかり者で、わがままをしないようになったと思います。高校の時は、母の帰りが遅くなるとまっ先に、台所に立って、料理をしたり、そうじをしたり、とてもしっかりしていました。兄は、東京から、たまにしか電話をかけませんが、その時は必ず、

「お母さんに心配かけるなよ。」

と、一言いいます。父を亡くし、母のつらさを、一番良く知っているのは、この兄だと思います。母を陰でささえてきた兄は、すごいと思います。これからも母をささえ、少しでも楽にさせてあげてほしいと思います。

姉の名前は、智子といいます。生年月日は昭和四十四年十二月七日生まれの射手座です。今、十七歳の高校三年生です。父が亡くなった時は、四歳でしたので、姉も父の事を、かすかに覚えているくらいです。そのせいか、女手一つで育てられた僕と同様、わがままです。しかし、やはり姉です。兄が就職したらちゃんと台所に立って、家事や、洗濯したりします。でもそれは、半分の日くらいです。あとの半分の日は、何もしないで、母が残業で帰ってきてから、しかられながらやります。だが、やるときは何でもやる姉です。ちょっとわがままで、母に似て強情ですが、やっぱり姉です。

僕の名前は、芳久です。生年月日は、昭和四十八年三月二十六日生まれの牡羊座です。中学三年生の十四歳です。僕は、この三兄弟の中で、やはり、一番できが悪いのかもしれません。わがままで、何も仕事をせず、ただ食べて寝る。それくらいのことしかやっていません。これじゃぁいけないと思うのですがなかなか実行にうつせないのです。それにすぐ〝カッ〟となってしまうし……。だが、これからは、兄や姉を見習い、将来は、まじめに働いて、一人しかいない親に、たくさん親孝行をしてやりたいと思います。

第九回新潟県少年の主張 長岡・栃尾・三古地区大会発表作品

人とのかかわりから考える

北辰中三年　小川紀子

みなさんは一日の間に、いったいどのくらいの人達と接していますか。

私の周りには、いろいろな人達がいます。私のように平凡な一日を送っている人もいることでしょう。いくら平凡な一日を送っているといっても一日の間に、数多くの人と接しているのです。

例えば、中学校へ行けば、先生や友達、家では、両親や兄弟達に。

みなさんの中で、まさかだれとも接しずに一日を送っている人はいないでしょう。もしそんな一日を送りたいと考えている人がいたら、私は無理だと思います。

私達は、いろんな人達と接しているからこそ、いろいろなことを考えながら生きているといえるのではないでしょう。これは、私が体験した数少ない経験からいえることなのですが。

私は、小さい頃に「車いすに乗ってみたい。」という小さな夢がありました。「歩くことは疲れる。車いすは楽だろう。」と思ったことがたまに見かける車いすに乗った人に対する、第一の感情でした。まだ幼い私は「車いすに乗りたい。」という好奇心から、両親にせがんだこともありました。でも、自分の手で動かすことを知らなかった私は、両親から押してもらい「車いすは楽だ。」というイメージが、頭の中に、できてしまいました。

父は、私が小学生の頃、特別養護老人ホームに転職し勤め始めました。小学校の五、六年生の頃から、父の仕事に興味をもち始め、時々、手伝いをしに行くようになりました。始めは、おしぼりをたたんだり、お茶をベットから起きられない人達に配ったりする仕事でしたが、慣れてくるにしたがって、ごはんを食べさせてやったり、お話相手といったことをやらせてもらえるようになりました。見ず知らずのお年寄りでも、気軽に話かけて、くれるようになりました。私の方から、話かけると、とても喜んでくれるようになりました。私でも少しは、役に立つのかと、うれしい気持ちでした。

老人ホームでも、健康な人ばかりではありません。体の不自由な人がたくさんいます。そしてもちろん、車いすもたくさんあります。その時、私はふと幼かった頃の自分に戻り、ロビーにあった車いすに腰をかけました。そして右手で、タイヤの部分を回し始めました。始めて自分で走らせた、車いすに感激して、無中で走らせました。最初何も感じなかった私でしたが、急に肩が痛くなり、腕に力が入らなくなりました。ふとその時、私は我に返り、自分の心の醜さを知りました。自分が今まで「楽でいい」と思ってきた車いすのイメージが、あまりにも違っていたからでした。

実際に、坂の登り下りも体験しましたが、登りは一本もない坂でも登れませんでした。下り坂だからだと思うでしょうが、ブレーキをかけながらの下降は、とても力のいる仕事でした。この体験で、中学生の私でも、できなかったことを、老人ホームのお年寄り達は人の手をかりずに、自分の手でしているかと思うと、「自分はなんて軽薄な人間なのだろう。」と心から思いました。そして少しでも多くの人の役に立ちたいと思いました。

私の経験したこのできごとは、私の心を大きく変えました。私の独りよがりのイメージが、このできごとで消えてしまったのです。もし、このイメージを自分の頭の片隅に残したまま、今の自分があるとするならば、きっと私は、人の心の、痛みのわかる人に絶対にならないことでしょう。いろいろな人との出会いが、私をよりよい人間にしていってくれるのです。だから私は、もっともっと数多くの人と出会いたいと思います。そうでないと、自分の独りよがりの考え方が、どんどん広がっていきそうでこわいのです。

私は、今、とてもよい環境に恵まれて、多くの人達と接してきました。そしてこの体験のような、いろいろなできごとの中で、考えさせられることがたくさんありました。今後も、このような体験が持ちうけているかも、しれませんが、どんな時でも、今の自分を、大切にしながら、これからの自分も大切に、していきたいと思っています。

スポット☆安全母の会結成総会

和島村交通安全母の会結成される

十二月十三日(日)、桐島地区農協構造改善センターで和島村交通安全母の会が結成されました。

この日は、八十名を越す婦人が出席され、また、村長、与板警察署長、村交通安全協会長、村婦人協議会長らを紹き行われました。

村長のあいさつや経過説明、会則の審議に続き役員選出が行われ次の方が選出されました。

〈会　長〉
久住真知子さん(下小島谷)

〈副会長〉
本間千枝子さん(道城下)
小林レイ子さん(両　高)

その後、与板警察署長から祝辞があり、久住新会長からは、島田地区農協ガソリンスタンド脇と新落水橋脇に信号機設置の要望が提案され、全会一致で賛同し閉会となりました。

今後、会員・仲間を増やし活動が充実し村から交通事故がなくなることが望まれます。

村民卓球大会 盛況のうちに終わる

公民館主催の村民卓球大会が十二月六日(日)に和島農村勤労福祉センターで行われました。

当日はみぞれの降る悪天候でしたが、勤労福祉センターの中は、熱い戦いが繰り広げられました。

成績は次の通りです。

◎団体戦　（優勝のみ）
◎個人戦
小学生男子　下町下チーム
小学生女子　平本朋之
中学生男子　早川愛子
一般四十歳未満男子　斉藤　篤
一般四十歳以上男子　小林英夫
一般女子　竹内嘉秀
　　早川洋子

ありがとうございました 共同募金一、二〇九、二三一円

十月一日から実施致しました赤い羽根共同募金につきましては、区長はじめ、事業所、学校、村民の皆さんの協力により別表の実績をあげることができました。厚くお礼申し上げます。募金は、新潟県共同募金会へ納入し、六十三年度に募金の配分金が和島村社会福祉協議会に約九十五万円交付され、本村社会福祉の財源として活用されます。

○戸別募金　八九一、八〇〇円
○事業所募金　二二五、〇〇〇円
○学校募金　三四、七六七円
○その他　五七、六五四円

地域名	募金額(円)	地域名	募金額(円)
上小島谷	23,100	上　桐	65,100
中小島谷	29,400	三瀬ヶ谷	10,500
下小島谷	32,900	北　野	34,300
駅　前	80,500	根小屋	14,000
下富岡	38,500	荒　巻	37,100
若野浦	10,500	新　田	18,200
阿弥陀瀬	21,700	中　央	28,700
高　畑	15,400	下町上	36,400
日野浦	33,600	下町下	44,800
中　沢	39,200	川　端	28,000
梅　田	14,000	道城下	22,400
東保内	46,900	法善町	17,500
村　田	44,100	寺　町	17,500
城之丘	28,700	小　谷	4,900
両　高	53,900	合　計	891,800

青色は 進めじゃなくて よく見て進む

☆ワシマ

もちつき大会

12月8日、桐島小学校で今年も、もちつき大会が行われました。

これは今年で14回目を数える毎年恒例の行事となったようです。桐島地区農業協同組合からいろいろ援助や協力をしてもらいまた、PTA役員の協力も得て盛大に行われました。

子供たちは代わるがわるに杵(きね)を持ち「よいしょ！」「よいしょ！」と声をかけ、ひと足早い正月気分にひたりました。

防火パレード

十一月二十九日、消防自動車六台を連ねて、村内全域を火災予防の呼びかけをして回りました。

これから雪が降りますので消火栓に目印をつけたり、食事どきの火の仕末や暖房器具の取扱いには十分注意して下さい。

また、万一のときは、すぐ消防署（一一九番）へ連絡しましょう。

村長室の黒板から　和島村長　佐藤繁

十一月十九日　行政改革委員会に於いて執行推進状況報告

二十日　明年度予算検討会議

二十一日　夜間照明施設、教職員住宅竣工式

二十四日　与板土木振興会陳情の為上京　国会建設省等

二十五―二十六日　全国町村長大会及び県町村長研修会の為上京

二十七日　県主催農地利用増進会議に出席(改善センター)

三十日　田中代議士秘書御来村明年度公共事業陳情　農業所得協議会と地区農団意見交換会　夜島崎地区国道用地調印式

十二月一日　固定資産評価審査委員会

二日　土木振興会陳情の為上京　建設省河川局等

三日　清掃センター全員協議会が開催されごみ、し尿用地検討

四日　全国災害復旧大会及びエネルギー庁に陳情

五日　郡町村会　村史編さん準備委員会

九日　村史編さん準備委員会

十日　全国治水大会

十一日　長岡郷耕地協議会

十二日　農業所得協県連総会

十三日　交通安全母の会結成総会　熱心に会則が審議され役員の選出も行われました

歳末に憶う

暮も迫った八日夜与板警察署の御案内を受けて管内特に和島村の歳末警戒状況視察の機会を得ました。今年は国道一一六号の与板署管内で七件の死亡事故がありその内二件は村内でおき、尊い人命が失われて、かけがえのない生命を失い後に残った遺家族のこれからのことを思うと暗たんとする。わが村の酒気おび運転も管内随一とか。幸い交通安全母の会の誕生を見た。まだ百人たらずだが全戸加入して頂いて事故防止は家庭、地域、村ぐるみへと母の果す役割は大きいと思う。来年こそ無事故の村になって欲しいと願いながら今年の筆を擱く。

今月の納税

※	村県民税	第4期分
※	国民健康保険料	1月分
※	国民年金保険料	1月分
※	幼稚園保育料	1月分
※	保育所保育料	1月分
※	水道使用料	1月分

ただいまと 笑顔ではずず ヘルメット

お知らせ広場

和島保育所

入所申請を受付いたします

1、入所資格
　和島村に住所を有し、なおかつ家庭において保育が困難な状態にある乳児（満1歳に満たない者）及び幼児（満1歳から5歳までの者）

2、定員
　120名

3、申請受付
　(1)日時　1月18日(月)島田地区
　　1月19日(火)桐島地区
　　午前9時～午後4時
　(2)場所　保育所　事務室

4、申請方法
　役場住民課又は保育所に申請用紙が用意してありますので、必要事項を記入の上、当日ご持参下さい。

5、保育料について
　現時点では昭和63年度の国の徴収基準が決定しておりませんので、基準が決まり次第村の基準を作り、申請後それに基づき保育料を決定します。
《算定方法は、児童と生計を同じくする家族全員（児童の叔父、叔母は除く）の前年分の所得税額等の合計による階層区分による》

6、その他
　不明な点がありましたら、役場住民課まで照会下さい。
（TEL 74－3111　内線26）

和島幼稚園 入園願のお知らせ

昭和六十三年度の幼稚園の入園についてお知らせいたします。
　入園の申し込みは早目にお願いいたします。

◆**入園できる子供は**
昭和五十七年四月二日～昭和五十八年四月一日までに生まれた子供

◆**受付期間は**
一月十六日～一月三十一日まで

◆**提出場所は**
和島村教育委員会へ
入園願の用紙と幼稚園に関する説明書は保育所を通じて子供の家庭へお届けいたします。
　不明な点は、次へ
○教育委員会　七四－三一一一
○幼　稚　園　七四－三六六八

新潟県史刊行の御案内 ―予約募集中―

新潟県が立県百年の記念事業として、編さんを進めている「新潟県史」は、昨年度に続いて、昭和六十三年三月に五巻が刊行されます。
　本年度刊行予定の通史編五巻は、既巻の通史編四巻と同様、図版・写真を豊富に取りそろえた親しみやすい県史です。原始古代から昭和五十一年までを記述の対象とする通史編全九巻は、これで完結することになります。
　この機会に多くの皆様の御購読を御勧めします。

✠昭和六十二年度刊行巻の頒布
　価格
通史編四近世二　三、七〇〇円
通史編五近世三　三、七〇〇円
通史編七近代二　三、七〇〇円
通史編八近代三　三、七〇〇円
通史編九現　代　三、七〇〇円
（分売可・送料別）
　なお、既刊の二十九巻とも在庫がありますので、ご注文ください。

✠申込み先
〒九五〇
新潟市新光町四番地一
新潟県総務部県史編さん室
電話（代）〇二五－二六－五五二
（内）二一〇一

✠申込み方法
官製ハガキに住所・氏名・購入巻名・冊数・公私用別・電話番号などを記入して、お申し込みください。

入札参加資格審査申請説明会開催

つぎにより昭和六十三年度入札参加資格審査申請事前説明会を行います。

●日　時
一月二十二日（金）午後一時三十分から

●場　所
与板土木事務所

●内　容
昭和六十三年度入札参加資格審査申請書記載要領の説明

●対象者
建設業許可業者で、県の入札に参加しようとする業者

●申請書類の提出期限
前期分　昭和六十三年二月一日～昭和六十三年二月二十九日

農業委員会委員選挙人名簿登載申請書の提出について

毎年、一月一日現在による農業委員会委員選挙人名簿登載申請書を農業委員会まで提出しなければなりません。
　次の事項に該当する方は、一月十日までに提出してください。
一、和島村農業委員会の区域内に住所を有する者であること。
二、年齢が満二十歳以上の者であること。三月三十一日現在（昭和四十三年四月一日生れまで）二十歳に達する者も記入してください。
三、十アール（一反歩）以上の農地につき耕作の業務を営む者。
四、耕作従事日数が年間おおむね六十日以上の者。
五、申請書の記入事項はすべて昭和六十三年一月一日現在の状況を記入すること。
　以上申請書の裏面にも記載してありますが、不明な点は農業委員会に問い合せください。

　農業委員会では「やめよう！ヤミ小作・進めよう利用権設定」を合言葉に利用権設定等促進事業による貸借を進め、安定的な利用関係を保ち健全な農業経営が出来るよう掘り起こしを行っていますので協力くださるようお願いいたします。
　なお、農地の問題は最寄りの農業委員か役場農業委員会に相談ください。

1月の心配ごと相談

日　時…16日、25日　午前9時から正午まで
場　所…福祉センター老人室
内　容…生活相談・医療相談・家事相談・児童相談・年金相談・身障相談・職業相談・その他なんでも
その他…相談内容は秘密で費用は無料です。

テレホンサービス 1月分

「ハイ県くらしのダイヤルです。」
＊ダイヤルしましょう(025)285－7000＊
情報は正午に切り替えます。

漆器の正しい手入れ	1月4日～1月11日
消費生活相談事例	1月11日～1月18日
青果物トレー包装の適正化	1月18日～1月25日
消費生活相談事例	1月25日～2月1日

＊緊急な消費生活情報は予定を変更することがあります。

小型ボイラーの特別教育講習開催

小型ボイラー設置事業主からの要望と新潟労働基準局、各労働基準監督署の指示もあり、事業主にかわって特別教育を行います。

1．講習会場、期日及日時間

長岡	けさじろ荘（3F大会議室）（長岡市今朝白1丁目10-27）	1月25日(月) 26日(火)	50名

※時間は9時～17時（受付8時30分より）駐車場はありませんので車は御遠慮下さい。
★詳しいことは
〒951 新潟市川岸町1丁目48の8　日本ボイラー協会新潟支部(TEL(025-267-1161)へ照会して下さい。

おかあさん わすれちゃダメよ！

―保健衛生行事―（1月）

月	日	曜	種目	対象	時間	場所
1	21	木	リハビリ訓練	希望者	午後1時～4時	福祉センター